

長崎における原爆関連行事の通時的变化（一）*

渡 壁 晃**

1 はじめに

本研究の目的は、戦後の長崎における原爆関連行事の全体像を記述することである。行事とは、原爆を想起する実践のうち、公的な要素をもち、特定の期間に開催される催しのことを指す。筆者は『関西学院大学社会学部紀要』の136号から138号にかけて広島地方紙『中国新聞』に掲載された広島における原爆関連行事を網羅的に記述した論文を執筆した（渡壁 2021a, 2021b, 2022）。長崎における原爆関連行事についての本研究と以上のような広島における原爆関連行事についての研究を比較検討することで被爆地の共通性と地域固有性を明らかにすることができる¹⁾。この点で、本研究で行う作業は重要である。本研究では、渡壁（2021a, 2021b, 2022）と同様に、1955年（被爆10周年）から2015年（被爆70周年）までの10年ごとの原爆関連行事を記述していく。本稿では、1955年、1965年、1975年の行事を記述する。

2 方法

本稿では、1955年、1965年、1975年の8月1日から8月15日までの間に長崎地方紙『長崎新聞』（1955年は『長崎新聞』の前身の『長崎日日新聞』と『長崎民友新聞』）に掲載されたすべての原爆関連行事を記述する。新聞記事の収集は、2022年2月12日から2022年4月1日にかけて、国立国会図書館関西館と長崎県立長崎図書

館郷土資料センターで行った。

『長崎新聞』を対象にした理由は以下のとおりである。

まず、『長崎新聞』は長崎の地方紙であり、長崎原爆に関連する情報が最も多く掲載されている新聞であると考えられるからである。『長崎新聞』は、全国紙の地方版よりも長崎の出来事の報道の量が多いと考えられる。つまり、全国紙の地方版に掲載される行事は、『長崎新聞』にも掲載されると考えられるため、『長崎新聞』1紙を集中的に調査することが有効だと考えた。

つぎに、本研究の今後の展開として、筆者の広島原爆関連行事についての研究（渡壁 2021a, 2021b, 2022）との比較を想定しているという理由が挙げられる。これまで、長崎原爆関連行事について網羅的にまとめる研究は行われてこなかったため、『長崎新聞』に掲載された行事を網羅的に記述することの意味は大きいと考えているが、それ以上に重要なのは、本研究での長崎についての記述と渡壁（2021a, 2021b, 2022）の広島についての記述を資料として、被爆地において原爆が想起されるメカニズムの共通性と差異を検討することであると思われる。このように比較を行ううえでは、扱う資料の性質をなるべくそろえておく必要がある。つまり、広島地方紙『中国新聞』を扱った渡壁の研究（渡壁 2021a, 2021b, 2022）と比較するには、長崎地方紙『長崎新聞』からデータを収集するのが適切だと考えたのである。

以上のような理由から、本研究では『長崎新聞』からデータを収集した。

*キーワード：戦争社会学、長崎原爆、行事

**関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程

1) 本研究では、行事を網羅的に記述することで、広島と長崎の原爆関連行事を比較検討するための材料を提示する。広島と長崎の共通性と地域固有性を考察する作業は別稿で行いたい。

3 長崎における原爆関連行事

本節では、長崎における原爆関連行事について原則日付順で記述していく²⁾。「8月1日から8月8日までの行事」「8月9日の行事」など日付ごとの項目に分けて記述する。2日間以上の日程で開催された行事については、初日の日程が含まれる項目に記述した。たとえば、8月6日から8月9日まで開催された行事があったとすると、「8月9日の行事」の項目ではなく、「8月1日から8月8日までの行事」の項目に記述した。また、行事名や主催者名などは略称等であっても原則新聞記事のとおりに記載している。「」で示したのが行事名である。複数の記事に掲載された行事の場合、行事名などの表記が揺れている場合がある。その場合は、1つの表記を選び、必要と思われる場合には注で言及した。

3.1 1955年の行事

3.1.1 行事の内容

3.1.1.1 7月31日までの行事

7月7日から7月10日にかけて、スイス・ローザンヌ市で「世界母親大会」が行われた。この行事には、日本代表の一員として被爆者の山口美代子が参加した。山口は大会の様子について、「私の体験した原爆の残こく性や10年間の苦しみにさらに原爆娘の生活状況を具体的に訴え、この悲しみをわかってもらいたいと呼びかけたところ、各国の母親代表も非常に感動された模様で涙を流してきてくれた」（『長崎日日新聞』1955.8.9朝刊7面、第4版）などと語った。

3.1.1.2 8月1日から8月8日までの行事

8月3日には、長崎市駒場町の霊安寺で大村、

諫早、佐世保、東彼川棚に仮埋葬されていた遺体の「原爆犠牲者改葬慰霊祭」が行われた。

何日間開催されたか不明であるが、8月3日からロンドンで国際議員連盟主催の「世界科学者会議」が開かれた。この行事は、7月9日に発表された「湯川博士、故アインシュタイン博士ら世界の著名な科学者8名の原水爆戦争反対の共同声明」をきっかけに開催されたもので、原子力の脅威に関する諸問題が討議された（『長崎日日新聞』1955.8.5朝刊3面）。

8月5日には、長崎市引地町の労働会館で日本大学長崎県人会主催、長崎日日新聞社後援の「日本大学夏季講演会」が開かれた。この行事では、彫刻家北村西望の「平和祈念像製作の感想」という講演をはじめ、3講演が行われた。同じ日には、北京で「原爆使用反対大会」が行われた。この行事は、広島で行われる「原水爆禁止世界大会」に声援を送るものであった（『長崎日日新聞』1955.8.7朝刊1面）。

8月5日から8月9日にかけて、長崎地区労主催の「原爆犠牲者追悼映画の夕」が開かれた。この行事は、原爆犠牲者の追悼と原爆被害者の救援資金カンパを兼ねて行われたもので、「福岡メデー」「無限の瞳」「原爆の子」などの作品が上映された。5日は稲佐町■郷公園³⁾、6日は城山平和公園、7日は住吉中■公園、8日は山王公園、9日は労働会館で行われた。

8月6日には、永井図書館で青年ユネスコ主催の「ユネスコ講演会」が、諏訪公園丸馬場で青年ユネスコ主催の「ユネスコの夕」が、広島市の平和記念公園で広島市主催の「原爆10周年平和記念式典」が、広島で「平和者会議」が行われた。

8月6日から8月8日にかけて、広島市で「原水爆禁止世界大会」⁴⁾が開かれた。この行事には

-
- 2) 『長崎新聞』は長崎以外の場所（たとえば、広島や東京、海外）で開催された行事も報道している。本稿では、それらについても記述する。また、8月1日から8月15日までではない日（たとえば、7月や9月）に開催された行事も掲載されることがあるが、それらについても記述していく。そして、新聞の発行日以降の行事は「予定」として報道されたものであるが、本稿では実施されたものとして扱った。以上の方法は渡壁（2021a, 2021b, 2022）と同じである。
 - 3) 新聞記事の状態によって読み取れなかった文字は■として記述した。以下でも新聞記事の文字が読み取れない場合は同様に対応した。
 - 4) 『長崎民友新聞』1955年8月11日付朝刊1面掲載の「世界平和集会」と同3面に掲載の「広島平和集会」は開催場所と行事内容からこの行事と同一の行事と判断した。

県評、県教組、電■、造船、原爆乙女の会、全■、平和を守る会、地区労から選ばれた長崎県代表13名が参加した。そして、8月6日から8月9日⁵⁾にかけて、長崎市で市教組、県教組、県高教組主催の「平和教育研究集会」が開かれた。6日午前には国際文化会館で講演会、6日午後と7日午前には山里小学校で分科会、7日午後には全体会議を開き、8日には出席者一同が「平和祈念像除幕式(後述)」に、9日には「祈念像公園の慰霊祭」(『長崎民友新聞』1955.8.7朝刊3面)⁶⁾に参列した。

8月7日には、長崎東高校で長崎合唱連盟主催の「合唱祭」が、山王公園で「原爆犠牲者供養塔除幕式」⁷⁾と「盆踊り」が、労働会館で「原爆10周年平和祈念句集『長崎』の刊行を記念する俳句大会ならびに文芸講演会」と「ユネスコ講演会」が行われた。

8月7日から8月9日にかけて、長崎市本大工町市民グラウンド特設舞台では長崎放送と長崎日日新聞社の主催で原爆10周年記念の慰霊演奏のために来崎していた天理高校スクールバンドによる「プラス・バンド演奏会」が行われた。そして、8月7日から8月10日にかけて、長崎市、雲仙、小浜で東本願寺大谷派の「全国仏教青年大会とボーイ・スカウト大会」が開かれた。この行事では、平和祈念像前での「原爆10周年追悼音楽法要」、「講演会」、「追悼法要」、「市中行進」、「ボーイ・スカウトこども大会」、「記念音楽会」などが行われた。

8月8日には、国際平和公園で「平和祈念像除幕式」が行われた。この行事の後には、平和祈念

像前で天理高校スクールバンドによる除幕記念の「祈念演奏」と長崎福祉事業協会による原爆犠牲者の慰霊と救済をはかるために同協会で作成した「平和祈念像の模型の販売」が行われた。同じ日には、平和公園から長崎駅前、本大工町の市民グラウンドなどを通り、県庁前までのルートで県労評主催の「平和祈念大行進」が、梁河公園集合で竹ノ久保慰霊塔、岩川町供養塔、城山、駒場、油木谷、三菱製鋼、純心学園などを歴訪する長崎市仏教連合会主催の「原爆殉難者ゆかりの地巡礼回向」が行われた。また、この日には、長崎市三菱会館で長崎市とNHKが主催の「原爆障害者治療募金の夕」⁸⁾が、国際文化会館で原爆殉難者慰霊奉賛会主催の「被爆者大会」が、稲佐町淵郷公園で稲佐地区連合青年団主催、長崎日日新聞社後援の「平和祈念盆踊大会」が、銭座小学校で「盆踊り大会」が開かれた。

8月8日から8月20日にかけて、ジュネーヴにある国連の欧州本部パレ・デ・ナシオンで「原子力という20世紀の新しい動力を人類の平和と幸福のために利用しようとする初の国際会議」(『長崎日日新聞』1955.8.8朝刊1面)である「原子力利用国際会議」が開かれた。

3.1.1.3 8月9日の行事

8月9日には、慰霊に関する行事が複数行われている。国際平和公園では長崎市の「原爆犠牲者慰霊ならびに平和記念式典」が行われた。平和公園ではこの行事の前に、裏千家淡交会長崎支部の「原爆犠牲者慰霊祭奉賛献茶式」からはじまる長崎市原爆殉難者慰霊奉賛会主催の「慰霊祭」と宗教連盟の「慰霊供養」、長崎仏教会の「原爆犠牲

5) 同じ記事の中にこの行事の開催日程は8月6日から4日間であったという記述と8月8日(3日目)を「平和教育研究集会最終日」とする記述があり、表記が揺れている(『長崎日日新聞』1955.8.5朝刊5面)。『長崎民友新聞』には、開催日程は2日間であるという記述(『長崎民友新聞』1955.8.4朝刊2面)と4日間であるという記述(『長崎民友新聞』1955.8.7朝刊3面)がある。後者の記事によると、8月9日は「平和祈念像公園の慰霊祭に加わって、平和達成のために教職員としての立場から努力することを誓う」(『長崎民友新聞』1955.8.7朝刊3面)とされている。このような表記の揺れの背景には、平和祈念像除幕式や慰霊祭への参列を行事の一環とみなすかどうかで判断が分かれていることが考えられる。ここでは、8月6日から8月9日までをこの行事の期間とみなす。

6) 「原爆犠牲者慰霊ならびに平和記念式典(後述)」のことと思われる。

7) 『長崎日日新聞』1955年8月8日付朝刊5面掲載の「原爆供養塔除幕式」は開催日が同一であることからこの行事と同じものと判断した。

8) これは、『長崎日日新聞』1955年8月9日付朝刊7面掲載の情報にもとづく。『長崎日日新聞』1955年8月9日付朝刊7面第4版には、主催者は県共募会長崎市支会となっている。これらの報道は、開催場所と行事内容から同一の行事のものと判断した。

者慰霊祭⁹⁾が、この行事の後に、天理高校スクールバンドの「慰霊演奏」が行われた。そのほか、浦上天主堂で「追悼ミサ」が、銀屋町教会でキリスト教協議会主催の「キリスト教追悼式」¹⁰⁾が、長崎市下筑後町永昌寺で門鉄長崎駐在運輸長室主催の「国鉄職員の慰霊祭」が、純心女子学園で「追悼ミサ」が、城山小学校で「10周年記念式典」が、山里小学校で「平和祈念式」が、淵中学校で「慰霊祭」が、浦上親愛女子学園で「慰霊祭」が、グビロが丘で長崎大学医学部主催の「慰霊祭」が、長崎大学医学部正門で「門柱の除幕式」が、城山八幡神社境内の原爆犠牲者供養塔前で城山地区自治会主催の「慰霊祭」が、今籠町大音寺で長崎ともいき会主催の「原爆10周年平和

祈願祭」が行われた。また、この日には、平和公園から浦上公園までのルートで「カトリックたいまつ行列」が、平和公園から梁川までのルートで「万灯供養流し」が行われた。この2つの行事は奉賛会の主催で行われた。さらに、長崎上空での長崎日日新聞社主催の「原爆10周年平和祈念」もこの日に行われた。この行事は、「10年前一瞬にして業火の犠牲となられた方々の御冥福を祈り、御遺族各位の御多幸を願つて『長日号』を飛ばし、慰霊祭式場を中心に左記¹¹⁾各位からの花束を投下し『平和への願い』のピラを広く散布」（『長崎日日新聞』1955.8.7朝刊1面）するものであった。

8月9日には、慰霊に関する行事以外の行事も

表1 1955年8月9日の慰霊に関する行事¹²⁾

行事名	場所	主催者
原爆犠牲者慰霊ならびに平和記念式典	国際平和公園	長崎市
原爆犠牲者慰霊祭奉賛献茶式	平和公園	裏千家淡交会長崎支部
慰霊祭	平和公園	長崎市原爆殉難者慰霊奉賛会
慰霊供養	平和公園	宗教連盟
原爆犠牲者慰霊祭	平和公園	長崎仏教会
天理高校スクールバンドの「慰霊演奏」	平和公園	
追悼ミサ	浦上天主堂	
キリスト教追悼式	銀屋町教会	キリスト教協議会
国鉄職員の慰霊祭	永昌寺（長崎市下筑後町）	門鉄長崎駐在運輸長室
追悼ミサ	純心女子学園	
10周年記念式典	城山小学校	
平和祈念式	山里小学校	
慰霊祭	淵中学校	
慰霊祭	浦上親愛女子学園	
慰霊祭	グビロが丘	長崎大学医学部
門柱の除幕式	長崎大学医学部正門	

- 9) 『長崎民友新聞』1955年8月6日付朝刊1面掲載の佛教連合会の「慰霊供養」は開催日、開催場所からこの行事と同じものと判断した。
- 10) これは『長崎日日新聞』1955年8月9日付朝刊5面の情報にもとづく。『長崎民友新聞』1955年8月6日付朝刊1面には銀屋町教会での平和を守る会の「キリスト教追悼」という行事の報道がなされているが、開催日、場所、行事名から「キリスト教追悼式」と同一の行事と判断した。
- 11) 「機上より献花に御参加の方々」として、長崎商工会議所会頭、長崎相互銀行社長、親和銀行頭取、西日本相互銀行長崎支店長、浜屋デパート社長、岡政デパート社長、十八銀行頭取、九州相互銀行社長、大村市澱粉業者有志一同、諫早市栄町田口屋呉服店主市議、農林中央金庫長崎支所、長崎魚市株式会社、九州電力株式会社長崎支店、長崎県信用漁業協同組合連合会、長崎県経済農業協同組合連合会、長崎県信用農業協同組合連合会、長崎県農業協同組合中央会の名前があがっている（『長崎日日新聞』1955.8.7朝刊1面）。
- 12) 表の空白の部分は新聞記事の内容からは不明であったことを示している。以下の表でも同様である。

慰霊祭	原爆犠牲者供養塔前（城山八幡神社境内）	城山地区自治会
原爆 10 周年平和祈願祭	大音寺（今籠町）	長崎ともいき会
カトリックたいまつ行列	平和公園～浦上公園	奉賛会
万灯供養流し	平和公園～梁川	奉賛会
原爆 10 周年平和祈念	長崎上空	長崎日日新聞社

行われている。勝山小学校で県評主催の「平和集会」¹³⁾が、市民グラウンドでは地区労主催の「映画の夕べ」¹⁴⁾が、長崎港の中島突堤では「花火大会」が開かれた。また、場所は不明であるが、前述の城山地区自治会主催の「慰霊祭」の後に「座談会」が行われた。同じく場所は不明であるが、天理高校プラスバンド¹⁵⁾の「市中行進」も行われた。

3.1.1.4 8月10日から8月15日までの行事

8月10日には、勝山小学校で県労評主催の「原爆10周年記念『平和大集会』」が開かれた。この行事には、県評傘下の各労組、「平和教育研究集会」に参加した日教組をはじめ、インド、ポーランド、オーストラリアの各代表などが参加した。

8月10日と8月11日には、松山町の競輪場で「長崎市原爆犠牲者慰霊奉賛会が音頭をと」（『長崎民友新聞』1955.8.11朝刊1面）った「平和踊り大会」が開かれた。

8月11日には、平和公園で奉賛会主催の「供養花火大会」が開かれた。

8月12日には、長崎市榎津町“千可良”で「懇談」が行われた。これは、彫刻家の北村西望が市内の新聞、放送関係代表者を招いて行ったもので、祈念像の構想や信念や完成までの苦心談を述べ、さらに平和観と科学者のあり方について語ったものである。

8月13日には、福岡で「平和集会」が開かれた。この行事には、「原爆10周年記念『平和大集会』」に参加した外国代表団が参加した。

8月14日には、鎌倉由比ヶ浜海岸で「第4回“海の平和祭”」が行われた。この行事は、「世界の平和は話合で」「原水爆禁止」のスローガンを掲げたものであった（『長崎日日新聞』1955.8.15朝刊5面）。

3.1.1.5 8月16日以降の行事

8月27日には、東京で「報告会」が行われた。この行事には、世界母親大会の日本代表の一員であった被爆者の山口美代子が参加した。

10月1日には、場所は不明であるが、「長崎県新聞界物故者慰霊祭」¹⁶⁾が開かれた。この行事は、長崎日日新聞創刊65周年諸行事のひとつとして行われた。

年末には、場所は不明であるが、「知名士の短冊色紙即売展示会」が文化団体により行われた。

3.1.1.6 開催日程が不明な行事

この年には、開催日程が不明な行事も複数あった。県評傘下各組合による「平和集会」が行われた。この行事は『長崎日日新聞』8月3日朝刊に掲載された。そして、記念行事として青年ユネスコでは「原爆被害者救援資金募集運動」が、地区労では「原水爆禁止署名運動」が、教組では「児童生徒作文スケッチ大会」が行われた。これらの行事は『長崎日日新聞』8月5日朝刊に掲載された。さらに、前述の「原子力利用国際会議」に関連する行事として、パレ・デ・ナシオン内の「米英仏ソの展示会」と、ジュネーヴの旧市内のパレ・デ・レクスポジションでの「原子力工業博覧会」が行われた。これらの行事は『長崎日日新聞』8月8日朝刊に掲載された。

13) 『長崎日日新聞』1955年8月9日付朝刊7面に県労評主催の「平和集会」（「原爆10周年記念『平和大集会』」として後述）という行事についての記事が掲載されているが、開催日が異なることからこの行事と異なる行事と判断した。

14) これは、前述の8月5日から8月9日にかけて開催された長崎地区労主催の「原爆犠牲者追悼映画の夕」と類似の行事であるが、開催場所が異なるため、ここでは別の行事として扱った。

15) 天理高校スクールバンドのことと思われる。

16) 行事名は旧字体を新字体に改めた。

3.1.2 小括

この年代の行事の特徴は2点ある。

1点目は、8月8日の「平和祈念像除幕式」をはじめ、彫刻家の北村西望が講演を行った8月5日の「日本大学夏季講演会」など平和祈念像に関連する行事が複数行われていることである。

2点目は、地区労、県評、市教組など労働者を主体とする団体による行事が複数行われていることである。たとえば、8月5日から8月9日にかけて行われた長崎地区労主催の「原爆犠牲者追悼映画の夕」や8月6日から8月8日にかけて行われた市教組、県教組、県高教組主催の「平和教育

研究集会」などがあげられる。広島ではこの年「原水爆禁止世界大会」が行われたことで、原水禁運動が社会運動の中心となっていたが、長崎においては1955年の時点では原水禁運動の影響は相対的に弱かった。

3.2 1965年の行事

この年には原水禁運動関連の行事が多く開催されている。以下では行事内容を記述していくが、見取り図を示すためにこの年の原水禁運動関連の行事の一覧表を示す。

表2 1965年の原水禁運動関連の行事

開催日	行事名	場所
日本原水協関連		
7月27日～7月30日	第11回原水爆禁止世界大会国際会議	東京(27日:高輪プリンスホテル)
7月31日～8月2日	第11回原水爆禁止世界大会総会全体会議	東京(31日:東京都体育館・大田区体育館、2日:小石川サッカー場)
8月5日	第11回原水禁世界大会広島大会	広島・本川小学校
8月6日	被爆者大会	広島市公会堂
8月7日	第3回長崎平和文化祭	国際文化会館(長崎市平野町)
8月8日	原水禁世界大会長崎集会	長崎市営大橋球場
8月8日	原水協第11回世界大会長崎大会各県各国代表者会議	長崎・グランドホテル
8月8日	海外代表団の長崎原爆病院慰問	
8月8日	市内平和行進・ちょうちん行列	
8月9日	原水禁世界大会閉会総会	長崎市
原水禁日本国民会議関連		
8月5日	被爆20周年原水禁世界大会・広島からベトナム戦争の即時停止を訴える大集会	広島・中島小学校
8月6日	被爆20周年原水禁世界大会開会総会	広島県立体育館
8月6日	被爆者を囲む懇談会	広島市内7会場
8月8日	分散会	県自治会館など長崎市の10会場と佐世保市公会堂
8月8日	海の平和祭	
8月9日	被爆20周年原水禁世界・長崎大会	長崎国際体育館
8月9日	展示即売会	長崎国際体育館
8月11日～8月14日	被爆20周年世界大会	東京・社会文化会館
核禁会議関連		
8月1日	原爆20周年広島大会	広島
8月7日	原爆20周年核禁九州長崎大会	長崎市公会堂
8月7日	九州各県の代表的な民謡と舞踊を集めたアトラクション	長崎市公会堂
8月7日	ちょうちん行列	長崎市公会堂前～観光通り～浜町～中央橋～県庁前のルート
8月14日	平和国民大会	東京・日比谷公会堂

3.2.1 行事の内容

3.2.1.1 7月31日までの行事

7月15日には、東京・お茶の水の全電通会館で「原爆記録の作成運動の話し合い」が行われた。この行事で、原爆被災資料収集協力委員会（仮称）の結成が決まった。

7月27日から7月30日¹⁷⁾にかけて、東京で日本原水協主催の「第11回原水爆禁止世界大会国際会議」が開かれた。この行事は27日には高輪プリンスホテルで行われた。

7月31日から8月2日にかけて、東京で日本原水協主催の「第11回原水爆禁止世界大会総会全体会議」が開かれた。この行事は、31日には東京都体育館と蒲田の大田区体育館の2会場で、2日には小石川サッカー場で行われた。

3.2.1.2 8月1日から8月8日までの行事

8月1日には、広島で核禁会議主催の「原爆20周年広島大会」が開かれた。

8月1日から8月31日にかけて、長崎国際文化会館で長崎新聞社後援の「長崎国際文化会館開館10周年記念市復興20年写真展」が開かれた。

8月3日には、長崎国際文化会館で長崎原爆体験記録収集委員会の2回目の「委員会」が行われた。

8月5日には、長崎市西浜町の安■ビルで長崎市内の学識経験者と文化人で構成する長崎平和懇話会の「懇話会」が、広島の本川小学校で日本原水協主催の「第11回原水禁世界大会広島大会」が、広島の中島小学校で原水禁日本国民会議主催の「被爆20周年原水禁世界大会・広島からベトナム戦争の即時停止を訴える大集会」が開かれた。

8月6日には、広島・平和記念公園で広島市主催の「原爆死没者慰霊平和祈念式典」が、広島市公会堂で日本原水協主催の「被爆者大会」が、見真講堂で日本原水爆被■者団体協議会主催の「原爆死没者慰霊祭」が、広島県立体育館で原水禁日本国民会議主催の「被爆20周年原水禁世界大会開会総会」が開かれた。この日には、原水禁国民

会議の大会の関連行事として広島市内7会場で「被爆者を囲む懇談会」も行われた。

8月7日には、西彼大島町と外海町池島で松島炭鉱労働組合大島、池島両支部による「原爆被爆者救援対策街頭カンパ」が行われた。また、この日には、8月8日の「原水禁世界大会長崎集会（後述）」の前夜祭として長崎市平野町の国際文化会館で県原水協主催の「第3回長崎平和文化祭」が行われた。そして、長崎市公会堂での核禁会議主催の「原爆20周年核禁九州長崎大会」もこの日に行われた。核禁会議の大会の終了後には、長崎市公会堂で「九州各県の代表的な民謡と舞踊を集めたアトラクション」が行われた。さらに、この「アトラクション」の後には、長崎市公会堂前から観光通り、浜町、中央橋を通り、県庁前までのルートで「ちょうちん行列」が行われた。

8月8日には、本紙屋町の友愛社会館保育園で長崎キリスト教協議会主催の「原爆犠牲者合同追悼式」が、長崎市国際文化会館で長崎原爆殉難者慰霊奉賛会主催の「被爆者だけの集い」が行われた。また、この日には、長崎市宮大橋球場で日本原水協主催¹⁸⁾の「原水禁世界大会長崎集会」が、長崎・グランドホテルで「原水協第11回世界大会長崎大会各県各国代表者会議」が、長崎市の県自治会館など10会場と佐世保市公会堂の計11会場で県原水禁主催の「分散会」が行われた。場所は不明であるが、原水禁国民会議の「海の平和祭」もこの日に行われた。また、この日には原水協の「海外代表団の長崎原爆病院慰問」と「市内平和行進・ちょうちん行列」も行われた。

3.2.1.3 8月9日の行事

この年も8月9日には、慰霊に関する行事が複数行われている。長崎平和公園では長崎市主催の「原爆犠牲者慰霊および平和祈念式典」が行われた。この式典の前に、「原爆殉難無縁仏慰霊祭」、表千家山下平八郎らの「献茶式」、長崎岳風会の「献吟」、県警本部音楽隊の「慰めの曲演奏」があった。そのほかにも、浦上天主堂で「追悼ミサ」が、体育館前で宗教連盟の「追悼法要（仏式）」

17) 『長崎新聞』1965年8月10日付朝刊1面には、「第11回原水爆禁止世界大会」が東京で行われたのは7月28日からとの記載があり、表記が揺れている。

18) 『長崎新聞』1965年8月7日付朝刊1面と同紙1965年8月8日付朝刊7面にはこの行事が県原水協主催であるとの記載がある。

が、城山小学校で「慰霊、平和祈念式」が、純心女子学園礼拝堂で純心女子学園の「追悼ミサ」が、純心女子学園校門横の慈悲の聖母像前で純心女子学園の「■前祭」が、長崎大学医学部のグピロヶ丘で長崎大学の「慰霊祭」が、長崎市坂本町の山王神社境内で坂本山王自治会の「原爆犠牲者慰霊祭」が、国際体育館前で長崎原爆殉難者慰霊奉賛会主催の「被爆者だけの慰霊祭」が行われた。浦上川での原爆殉難者奉賛会主催の「万灯流し」と、平和公園から信愛幼稚園までのルートでの「市内全カトリック信者による」(『長崎新聞』1965.8.8 朝刊1面)「タイマツ行列」、山王神社境内での「追悼盆おどり」、納骨堂前での「追悼献灯」もこの日に行われた。

8月9日には、慰霊に関する行事以外の行事も行われている。長崎市で日本原水協主催の「原水禁世界大会閉会総会」が、長崎国際体育館で原水禁国民会議主催の「被爆20周年原水禁世界・長崎大会」が行われた。原水禁国民会議の大会の会場では、長崎平和の折り鶴会・平和を訴える子供

の会による「展示即売会」が開かれた。この行事は、「原爆病院入院患者が療養のかたわらビニールヒモで編んだレース、ひょうたん、尾長鳥、鶴などの手芸品」(『長崎新聞』1965.8.6 朝刊6面)を展示販売するものであった。

8月9日から8月10日にかけて、大島町移動保健所で長崎県大瀬戸保健所の「被爆者検診」が行われた。

3.2.1.4 8月10日から8月15日までの行事

8月11日には、平和公園で原爆殉難者奉賛会、世界平和協会、長崎市レクリエーション協会主催の「原爆殉難者供養盆踊り大会」が行われた。この行事は8月10日にも予定されていたが、雨のため中止となっていた。また、この日には、平和公園で「花火大会」が、長崎駅前の本蓮寺で門鉄クラブ長崎支部主催の「長崎地区国鉄殉難者慰霊祭」が行われた。

8月11日から8月14日¹⁹⁾にかけて、東京・社会文化会館で原水禁日本国民会議主催の「被爆20周年世界大会」が開かれた。

表3 1965年8月9日の慰霊に関する行事

行事名	場所	主催者 ※()内は実施主体
原爆犠牲者慰霊および平和祈念式典	長崎平和公園	長崎市
原爆殉難無縁仏慰霊祭	長崎平和公園	
献茶式	長崎平和公園	
献吟	長崎平和公園	
慰めの曲演奏	長崎平和公園	
追悼ミサ	浦上天主堂	
追悼法要(仏式)	体育館前	宗教連盟
慰霊、平和祈念式	城山小学校	
追悼ミサ	純心女子学園礼拝堂	純心女子学園
■前祭	純心女子学園校門横の慈悲の聖母像前	純心女子学園
慰霊祭	長崎大学医学部のグピロヶ丘	長崎大学
原爆犠牲者慰霊祭	山王神社境内(長崎市坂本町)	坂本山王自治会
被爆者だけの慰霊祭	国際体育館前	長崎原爆殉難者慰霊奉賛会
万灯流し	浦上川	原爆殉難者奉賛会
タイマツ行列	平和公園～信愛幼稚園のルート	
追悼盆おどり	山王神社境内(長崎市坂本町)	
追悼献灯	納骨堂前	

19)『長崎新聞』1965年8月10日付朝刊1面では、8月11日から8月13日まで原水禁の国際会議が行われるという報道があったが、この行事と同一とみなした。

8月14日²⁰⁾には、東京・日比谷公会堂で核禁会議主催の「平和国民大会」が開かれた。

8月15日には、長崎市郷友会による「清掃」が行われた。この行事は、午前10時から長崎山城山町の護国神社、佐古招魂社、坂本町の軍人墓地の3か所を清掃し供花するものであった。正午には参加した長崎市郷友会会員や遺族関係者が黙とうをささげた。また、この日には、原爆中心地で長崎市が「戦没者の霊に供花、黙禱」する行事が行われた。

3.2.1.5 8月16日以降の行事

8月17日と8月18日には、銭座小学校で銭座地区主催の「慰霊盆踊り大会」が行われた。

8月23日から8月25日にかけて、外海町神ノ浦地区で長崎県大瀬戸保健所の「原爆検診」が行われた。

8月29日から8月31日にかけて、ソ連・ハバロフスクで「日ソ友好と平和のためのつどい」が行われた。この行事には、県原水禁の常任理事の米田広子が原爆被爆者代表として特別招待を受けていた。

3.2.1.6 開催日程が不明な行事

この年には、開催日程が不明な行事が1つあった。それは、東京で行われた「原爆被災資料収集協力会」である。この行事に参加した「木■氏」（『長崎新聞』1965.8.5朝刊7面）が前述の8月3日に開かれた長崎原爆体験記録収集委員会の2回目の「委員会」に出席してこの行事の報告を行った。この行事は8月5日朝刊に掲載された。

3.2.2 小括

この年代の行事の特徴は、原水禁運動に関連する行事が多く行われていることである。たとえば、8月7日の核禁会議主催の「原爆20周年核禁九州長崎大会」や8月8日の日本原水協主催「原水禁世界大会長崎集会」、8月9日の原水禁国民会議主催の「被爆20周年原水禁世界・長崎大会」などがあげられる。

3.3 1975年の行事

3.3.1 行事の内容

3.3.1.1 7月31日までの行事

5月16日には、長崎被災協の「定期総会」が行われた。この行事では「“むつ県内母港化の反対決議案”をめぐってもめた」（『長崎新聞』1975.8.6朝刊1面）という。

7月14日と7月15日には、広島市で25年ぶりとなる「原爆都市青年交歓会」が開かれた。

7月21日には、長崎証言の会、市内の学者、医師、文化人、被爆者団体関係者など三十数人の「会合」が開かれた。この行事では、核兵器全面禁止と原水禁運動統一へのアピールが出された。

7月24日から8月3日にかけて、「長崎原爆写真展」が開かれた。この行事は、7月24日から7月27日までは、アメリカ・テキサス州サン・アントニオで、7月28日から8月3日までは、アメリカ・ミネソタ州セントポールで行われた。セントポール市での行事は、長崎との姉妹都市提携20周年を記念したものであった。

7月31日には、東京都港区の芝パークホテルで社会党、共産党、総評、日本平和委員会、中立労連、日本科学者会議と日本原爆被害者団体協議会（オブザーバー）による「原水禁統一問題懇談会の6回目の会合」が行われた。

3.3.1.2 8月1日から8月8日までの行事

8月1日には、広島市の見真講堂で核禁会議主催の「核禁広島全国集会」が開かれた。

8月1日から8月2日にかけて、原水禁禁止日本協議会主催の「第21回原水禁禁止世界大会・国際予備会議」が開かれた。この行事は、8月1日には、東京・神田の学士会館で行われた。そして、8月1日から8月7日にかけて、広島市の平和記念館で「原爆死没者名簿の公開」が行われた。

8月2日には、長崎市内で核禁会議主催の「核禁会議長崎全国集会」が開かれた。この行事は、午後3時半から平和公園で第1部集会が、午後6時から長崎市公会堂で第2部集会が行われた。また、この日には、平和公園で「原爆詩人の故・福

20) 『長崎新聞』1965年8月10日付朝刊1面では、8月15日に核禁会議の国民大大会が行われるという報道があったが、この行事と同一とみなした。

田須磨子の詩碑除幕式」も行われた。

8月3日には、長崎市常盤町²¹⁾の温仙堂ビル5階大会議室で県俳句協会など主催、長崎新聞社後援の「第22回原爆忌九州現代俳句大会」が、平和祈念像前で長崎原爆青年乙女の会の会員20名による原水禁運動の統一を訴える「座り込み」が、長崎市三原町の本原教会で長崎市遺族会山里支部主催の「戦没者追悼ミサ、慰霊式」が、長崎市をはじめ、佐世保、諫早など長崎県内6市で街を美しくする運動推進協議会主催の「市民大清掃」が行われた。「市民大清掃」は中島川、平和公園、「原爆犠牲者慰霊世界平和祈念市民大行進(後述)」が予定されていた4ルートなどで行われた。

8月3日から8月4日にかけて、広島・県労働会館で原水爆禁止日本国民会議主催の「被爆30周年原水爆禁止世界大会国際会議」が開かれた。そして、8月3日から8月10日にかけて、長崎市魚の町の市民会館地下1階の会議室で長崎国際文化協会、長崎市、長崎市教育委員会、長崎原爆被爆者対策協議会主催の「第13回原爆忌作品展」²²⁾が行われた。この行事は市長から市民まで広く自由出品を呼びかけて行われるもので、原爆の悲惨さと永遠平和を訴えた文芸、美術色紙、短冊、写真、半切、工芸品などが展示された。

8月4日には、場所は不明であるが、「広島国際フォーラム」が開かれた。

8月5日には、広島市役所で広島長崎両市の「平和文化都市提携の調印式」が、広島県立体育館で原水爆禁止日本国民会議主催の「被爆30周年原水爆禁止世界大会開会総会」が、広島市の本川町にある韓国人被爆者慰霊碑前で「第6回韓国人原爆犠牲者慰霊祭」が行われた。

8月5日から8月7日にかけて、原水爆禁止日本協議会主催の「第21回原水爆禁止世界大会本会議」が開かれた。この行事は、8月5日には広島県立体育館で行われた。

8月6日には、長崎市五島町の県漁協会館で第3回原爆と科学・教育・文化を考える集い実行委員会主催、長崎の証言の会、県被爆教師の会など16団体共催の「原爆30年を考える長崎市民の集い」が開かれた。この行事は、「被爆30周年にあたり原爆体験の継承や原子力利用、韓国人被爆者救援など多面にわたる問題を市民みんなで考えようという集い」(『長崎新聞』1975.8.7朝刊11面)であった。また、この日には、広島市の平和公園慰霊碑前で広島市主催の「被爆30年原爆死没者慰霊・平和祈念式」が行われた。原爆投下時刻の8時15分には、長崎市内で「広島原爆犠牲者のめい福を祈るサイレンや鐘」が鳴った。サイレンは長崎市内各消防署が鳴らし、鐘は長崎市から依頼を受けた寺や教会が鳴らした。同じ日には、東京都港区の新橋第一ホテルで「第73回芥川賞授賞式」が、東京で核禁会議主催の「集会」が行われた。「第73回芥川賞授賞式」の対象作品は被爆体験をもとに描いた林京子の「祭りの場」であった。核禁会議主催の「集会」は前述の8月1日の「核禁広島全国集会」と同様の行事であった。

8月6日から8月15日まで、長崎では実行委員会(会長は諸谷義武長崎市長)による世界平和祈念旬間の行事が行われた。具体的な行事を以下に挙げる。8月6日から8月9日までと8月12日、8月13日には、「原爆記録映画会」が行われた。この行事は、8月6日から8月9日までは国際文化会館で、8月12日午前は南公民館で、同日午後は東公民館で、8月13日午前は西公民館で、同日午後は北公民館で行われ、長崎市作製映画の「長崎原爆の記録」が上映された。8月6日から8月15日にかけては、「国際文化会館の無料入館・夜間開館」が行われた。また、8月7日には、恵の丘長崎原爆養護ホームと原爆病院で「市長・市議会議長夫妻の施設慰問」が、長崎市公会堂前広場で「原爆犠牲者慰霊世界平和祈念旬間の夕べ、チャリティーバザー」²³⁾と「原爆犠牲者慰

21) 『長崎新聞』1975年8月11日付朝刊4面には、温仙堂ビルの所在地は長崎市大浦町と書かれている。

22) 『長崎新聞』1975年8月2日付朝刊7面に「国文協原爆忌文芸大会」、同紙1975年8月3日付朝刊11面と同紙1975年8月12日付朝刊4面に「原爆忌文芸大会」という行事の情報が掲載されているが、開催日、開催場所、主催者からこの行事と同一の行事か関連行事であると判断した。

23) 『長崎新聞』1975年8月8日付朝刊11面に「愛の基金協賛チャリティーバザー、原爆犠牲者追悼市民盆踊り」という行事の情報が掲載されているが、開催日と開催場所からこの行事と同一の行事と判断した。

霊平和祈念式典関係者の顕彰」が行われた。そして、8月9日には、原爆死没者慰霊納骨堂で長崎市民生児童委員協議会と長崎市無縁仏慰霊奉賛会が主催する「原爆殉難者無縁仏慰霊祭」が、平和公園で長崎原爆殉難者慰霊奉賛会主催の「原爆犠牲者慰霊祭」、長崎市婦人会の「原爆犠牲者慰霊献茶式」、それに続いて長崎市主催の「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が、国際体育館前で慰霊奉賛会による「万灯流し」が、松山競技場前広場出発のルートで「たいまつ行列」が行われた。さらに、8月10日には、宝町公園、中園公園、城山八幡神社、浦上天主堂前公園の4カ所を出発し、平和公園に向かうルートで世界平和祈念旬間行事委員会主催の「原爆犠牲者慰霊世界平和祈念市民大行進」が、8月10日と8月11日には、松山競技場前広場で「原爆犠牲者慰霊盆踊り」が行われた。

8月7日には、長崎市民会館文化ホールで創価学会青年部長崎県青年平和委員会主催の「75 原水爆禁止長崎平和集会」²⁴⁾が、広島市の県立体育館で原水禁日本国民会議主催の「『被爆30年核へ

の怒り』国民集会」が開かれた。

8月8日には、爆心地で県宗教者懇話会の「慰霊祭」が、NBC長崎放送局別館ビデオホールでNBC長崎放送局とRCC中国放送が共催の「被爆30周年記念映画祭」が行われた。この行事は2部構成で、第1部ではNBCが1973年に制作したテレビ・ドキュメンタリー「われなお生きてあり」の上映が、第2部ではこの年初めて開かれたヒロシマ国際アマチュア映画祭の受賞作品の発表と受賞作14点のうちグランプリ作品など6作品の上映が行われた。

8月8日から8月9日にかけて、原水禁日本国民会議主催の「被爆30周年原水爆禁止世界大会・長崎大会」が行われた。この行事は、8月8日午前には長崎市内18会場で「分散会」を開き、8月9日午前9時から市内20カ所で「慰霊碑参参」を行い、同日午前11時から国際体育館で「閉会総会」を開いた。また、これと同じ日程で、原水協の「広島・長崎被爆30周年第21回原水爆禁止世界大会・長崎大会」が開かれた。8月8日には長崎市魚の町の市民会館文化ホールで南北ベ

表4 世界平和祈念旬間の行事

開催日	行事名	場所
8月6日～8月9日、 8月12日、8月13日	原爆記録映画会	8月6日～8月9日：国際文化会館、8月12日：(午前)南公民館、(午後)東公民館、8月13日：(午前)西公民館、(午後)北公民館
8月6日～8月15日	国際文化会館の無料入館・夜間開館	国際文化会館
8月7日	市長・市議会議長夫妻の施設慰問	恵の丘長崎原爆養護ホーム、原爆病院
8月7日	原爆犠牲者慰霊世界平和祈念旬間の夕べ、 チャリティーバザー	長崎市公会堂前広場
8月7日	原爆犠牲者慰霊平和祈念式典関係者の顕彰	長崎市公会堂前広場
8月9日	原爆殉難者無縁仏慰霊祭	原爆死没者慰霊納骨堂
8月9日	原爆犠牲者慰霊祭	平和公園
8月9日	原爆犠牲者慰霊献茶式	平和公園
8月9日	原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	平和公園
8月9日	万灯流し	国際体育館前
8月9日	たいまつ行列	松山競技場前広場出発のルート
8月10日	原爆犠牲者慰霊世界平和祈念市民大行進	宝町公園、中園公園、城山八幡神社、浦上天主堂前公園の4カ所を出発し、平和公園に向かうルート
8月10日、8月11日	原爆犠牲者慰霊盆踊り	松山競技場前広場

24) 『長崎新聞』1975年8月6日付夕刊5面に「創価学会青年部反戦平和長崎大会」という行事の情報が掲載されているが、開催日、開催場所、行事名からこの行事と同一の行事と判断した。

トナム代表など約 50 人の海外代表と被爆者との「懇談会」が開かれ、8 月 9 日午前には外国人代表による「平和公園での供花、原爆病院の訪問」などがあり、同日午後 1 時から長崎市万才町の長崎家庭裁判所前から長崎市魚の町の市民体育館前までのルートで「市中平和行進」が行われ、同日午後 2 時から市民体育館で「本大会」、同日午後 6 時半からは市民会館文化ホールで「被爆者を励ます文化のつどい」²⁵⁾が開かれた。さらに、8 月 8 日から 8 月 15 日にかけて、長崎市魚の町市民会館展示ホールで「第 10 回長崎平和美術展」が開かれた。この行事は、1964 年に長崎平和美術協会が広く一般に呼びかけてアンデパンダン展を開いて以来毎年開催しているもので、この年は絵画、陶芸、写真部門に約 100 点が出品された。

3.3.1.3 8 月 9 日の行事

この年も 8 月 9 日には、慰霊に関する行事が複数行われている。それらのうち、世界平和祈念旬間などの行事はすでに記述したので、ここでは記述しないことにするが、以下のこの年の慰霊に関する行事をまとめた表には掲載する。

浦上天主堂では「追悼ミサ」が、爆心地では「全電通原爆犠牲者の碑除幕式」が、城山小学校では「城山小原爆殉難者の碑除幕式」が、白鳥公園では「旧制七高鎮魂の碑除幕式」が、あの子らの碑前では「山里小慰霊祭」が北九州市では「長崎原爆慰霊祈念式典」が行われた²⁶⁾。また、佐世保市消防局によって「原爆投下時刻に 1 分間にわたってサイレンを鳴らす」ことが行われ、広島でも「サイレン」が鳴らされた。この日の夜には浦上天主堂では被爆者慰霊と世界平和を願う「ミ

表 5 1975 年 8 月 9 日の慰霊に関する行事

行事名	場所	主催者
原爆殉難者無縁仏慰霊祭	原爆死没者慰霊納骨堂	長崎市民生児童委員協議会、長崎市無縁仏慰霊奉賛会
原爆犠牲者慰霊祭	平和公園	長崎原爆殉難者慰霊奉賛会
原爆犠牲者慰霊献茶式	平和公園	
原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	平和公園	長崎市
万灯流し	国際体育館前	慰霊奉賛会
たいまつ行列	松山競技場前広場出発のルート	
慰霊碑墓参	長崎市内 20 カ所	原水禁日本国民会議
追悼ミサ（朝に開催）	浦上天主堂	
全電通原爆犠牲者の碑除幕式	爆心地	
城山小原爆殉難者の碑除幕式	城山小学校	
旧制七高鎮魂の碑除幕式	白鳥公園	
山里小慰霊祭	あの子らの碑前	
長崎原爆慰霊祈念式典	北九州市	
原爆投下時刻に 1 分間にわたってサイレンを鳴らす	佐世保市	
サイレン	広島	
ミサ（夜に開催）	浦上天主堂	
天理高校慰霊演奏会	長崎市公会堂	天理教長崎教区
盆踊り大会	山王神社境内（長崎市坂本町）	坂本町自治会

25) 『長崎新聞』1975 年 8 月 8 日付夕刊 4 面に「このつどいは日本原水協・九州ブロック、長崎県原水協の主催で企画されたもの」という報道がある。

26) この日には、ここに挙げた以外の慰霊に関する行事も行われている。『長崎新聞』1975 年 8 月 8 日付朝刊 11 面では、「学校、町内会、職場、教会関係など市内約 20 カ所で慰霊祭が行われる」と報道があった。また、後述の「原爆登校日」で慰霊に関する行事が行われている可能性があると考えられる。

サ²⁷⁾が、長崎市公会堂では天理教長崎教区主催の「天理高校慰霊演奏会」が、長崎市坂本町の山王神社境内では坂本町自治会主催の「盆踊り大会」が開かれた。

8月9日には、慰霊に関する行事以外の行事も行われている。長崎国際文化会館講堂では「県民祈りの日のつどい」が開かれた。また、この日には、長崎市内の小学校48校のうち上長崎小学校と日見小学校を除く46校と市立26中学校全校で「原爆登校日」が実施された。佐世保市内の37の小中学校でも全校の「原爆登校日」が実施された。そして、場所は不明であるが、日本記者クラブ主催の「昼食会」もこの日に行われた。この行事では、来日中のジーン・R・ラロック米国防情報センター所長が講演し、「『核の破壊力は飛躍的に増大しており、現在では核を持たない国の方が、核を持っている国よりも安全である。日本は米国の核のカサを信頼すべきではない。日本の非核三原則はすばらしい原則であり、他の諸国もこの原則を取り入れるべきである』と述べた」（『長崎新聞』1975.8.10朝刊1面）。

3.3.1.4 8月10日から8月15日までの行事

8月10日には、古川町の日本キリスト教団長崎銀屋町教会で長崎キリスト教協議会主催の「長崎原爆30周年犠牲者追悼礼拝」が、長崎市岡町の平和公園近くのホテルで「日本被団協の墓参団と長崎の現地被爆者との交流集会」が行われた。

3.3.1.5 8月16日以降の行事

何日間行われたか不明であるが、8月16日までの日程で有川町町民課の「被爆者手帳更新」が行われた。

3.3.1.6 開催日程が不明な行事

この年には開催日程が不明な行事が2つあった。1つ目は、長崎市民会館で行われた「原爆絵画展」である。8月7日午後7時35分からのNHKの番組「ばってん長崎 原爆絵画展から」でこの行事の展示場からの中継が行われた。この行事は、8月7日朝刊に掲載された。2つ目は、長崎市若竹町で行われた創価学会若竹地区平和推

進の会主催の「被爆30周年平和祈念の集い」である。この行事は8月9日夕刊に掲載された。

3.3.2 小括

この年代の行事の特徴は2点ある。

1点目は、世界平和祈念旬間という1つの枠組みの中で慰霊祭や映画会、デモ行進など多様な行事が行われたことである。慰霊祭としては、8月9日に行われた長崎市主催の「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が、映画会としては8月6日から8月9日、8月12日と8月13日に行われた「原爆記録映画会」が、デモ行進としては8月10日に行われた「原爆犠牲者慰霊世界平和祈念市民大行進」があげられる。

2点目は、市内のほとんどの小中学校で原爆登校日を実施されたことである。前述のとおり、長崎市内の全48小学校のうち、2校のみを除く46校と市立26中学校の全校で「原爆登校日」が実施されたのである。

4 おわりに

本稿では、1955年、1965年、1975年の8月1日から8月15日までに発行された『長崎新聞』（1955年は『長崎日日新聞』と『長崎民友新聞』）に掲載されたすべての原爆関連行事について記述してきた。

1955年、1965年、1975年の3時点と比較することで見えてくるのは以下のようなことである。1955年には労働者の団体による行事、1965年には原水禁運動に関する行事のように社会運動と関連する行事が多く行われていた。一方で、1975年には、世界平和祈念旬間という長崎市長を会長とする実行委員会による行事群が現れた。1975年にも原水禁運動などの行事は行われているので、社会運動が長崎の原爆関連行事から姿を消してしまっただけではないが、1975年には、長崎の原爆関連行事において社会運動と並んで、あるいは社会運動に代わって行政がより重要な役割を果たすようになったのではないかと考えられる²⁸⁾。

27) 前述の浦上天堂での「追悼ミサ」は午前7時から行われるとの報道があったため（『長崎新聞』1975.8.8朝刊11面）、この行事とは別の行事と判断した。

28) 「社会運動と並んで行政が重要な役割を果たすようになった」と「社会運動に代わって行政が重要な役割を果たすようになった」のどちらが妥当であるかということの検討は本稿の射程をこえるので別稿で行いたい。

今後は、本稿の続きとなる 1985 年以降の長崎の原爆関連行事について記述していきたい。

文献

渡壁晃, 2021a, 「広島における原爆関連行事の通時的変化 (一)」『関西学院大学社会学部紀要』136: 87-101.

———, 2021b, 「広島における原爆関連行事の通時的変化 (二)」『関西学院大学社会学部紀要』137: 113-132.

———, 2022, 「広島における原爆関連行事の通時的変化 (三)」『関西学院大学社会学部紀要』138: 113-133.

The Transition of Events Surrounding the Nagasaki Atomic Bomb (1)

Akira WATAKABE

ABSTRACT

This article describes the events surrounding the Nagasaki atomic bomb in 1955, 1965 and 1975. The data were collected from the local newspaper, *The Nagasaki Shim-bun*. The study intends to describe all the events that appeared in this newspaper published in the first half of August of the three abovementioned years.

Using this information, this study revealed the characteristics of the events of each year. In 1955, the events presented two features, namely, those related to the Nagasaki Peace Statue, such as an unveiling ceremony and those held by labor unions. The feature of the events in 1965 is they were related to the movement to ban atomic and hydrogen bombs. In 1975, the events were held during a period of prayer for world peace. The chairman of the committee at the time was the mayor. Second, the majority of public elementary and junior high schools made their students go to school on August 9.

In conclusion, this study described and compared commemorative events in relation to the Nagasaki atomic bombing incident. In 1955 and 1965, groups of social movements held certain events. In 1975, however, administrative groups held certain events. This transition implied that the administration had gained its power after the movement to ban atomic and hydrogen bombs split into 3 main groups.

Key Words: sociology of warfare, the Nagasaki atomic bomb, events